

# 成長するモンゴル国

庭田 克行  
にわた かつゆき

大相撲で大活躍している横綱白鵬

二八万人程が集中している。

と日馬富士他多くの力士を輩出して  
いるモンゴル国へ市場調査の為二年  
前に行ってきた。

成田国際空港からM I A Tモンゴ  
ル航空で約六時間のフライトでチン  
ギスハーン国際空港に到着した。こ

ルまでタクシーで片道四〇分程度で  
あるが道路は整備されておらず且つ  
渋滞していた。市内では交通渋滞を  
回避するために陸橋（名称”太陽橋

ユーラシア大陸の内陸部に位置し  
海洋から遠く離れているモンゴルの  
地形は西高東低である。北西部は高

の空港は航空機の離着陸が一方向の  
みに制約され、天候の影響を受けや  
すいと聞いていたので無事着陸でき

”、長さ八九五m）が日本の無償援  
助で建設されたが、交通ラッシュは  
改善されていなかった。

い山地で、特に内陸湖や川が多い、  
南東部の大部分は砂礫性の土地が広  
がる。モンゴルの面積は一五六万km<sup>2</sup>  
で日本の約四倍、人口は約二八〇万  
人、その内首都ウランバートルに一

た時は安心した。このような気象条  
件を考慮し、現在ウランバートル郊  
外にO D A（政府開発援助）で新国  
際空港を建設中である。現在のチン

第二のサウジアラビアと言われて  
いるモンゴルの地下資源（石炭、銅、  
金等）開発は外国資本の主導で進ん  
でいるが、その中で特に南東部に位  
置するタバントルゴイ炭田の埋蔵量



は世界最大級で約六〇億トンと推測されている。中国などの鉄鋼需要が増える中でオーストラリアに依存する製鉄用石炭（原料炭）が北東アジア地域で確保される事は、中国、韓国、日本にとって歓迎するところだろう。

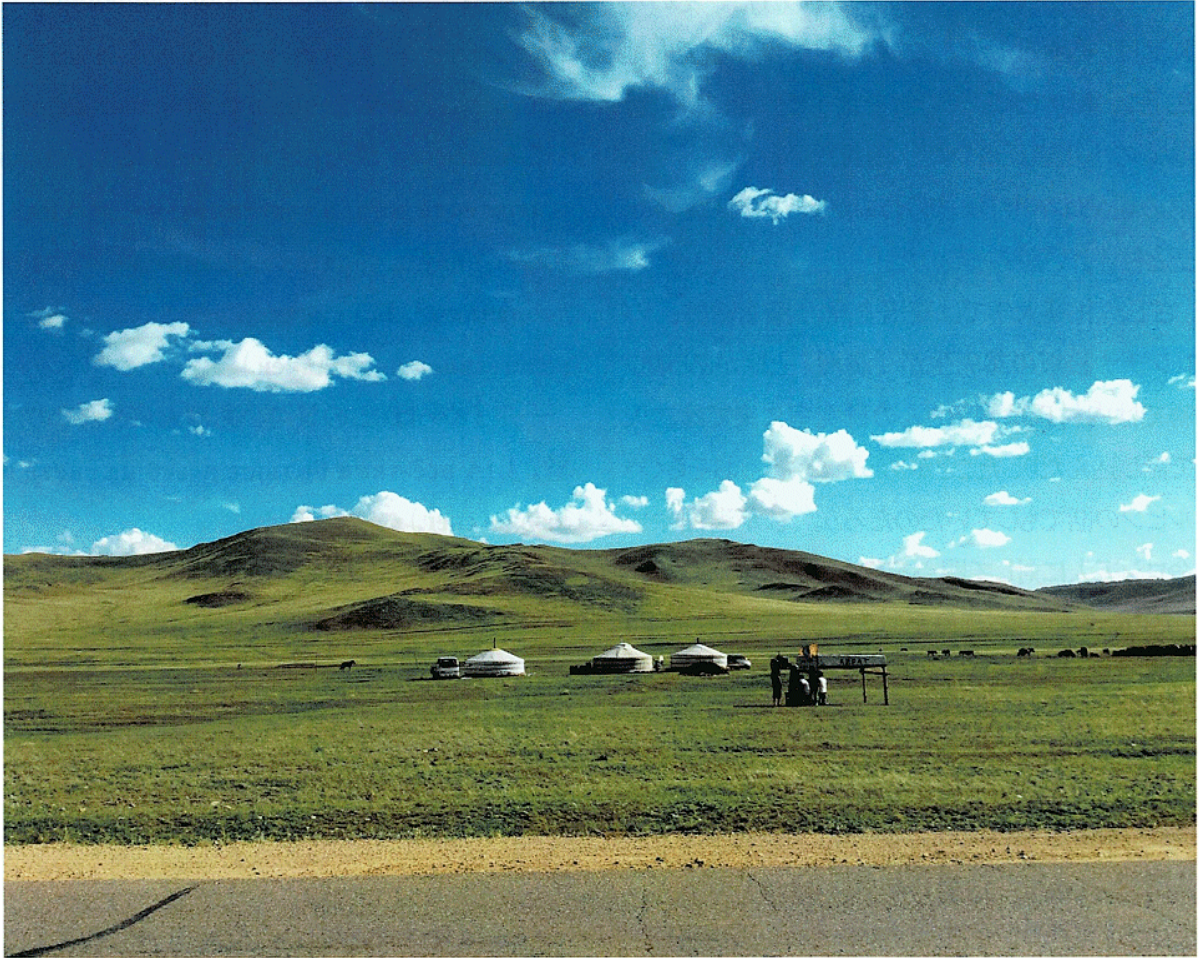
国際列車のゲージはロシアとは同じ広軌で一五二五㎜、中国が標準軌一四三五㎜であるため、ロシアからモンゴルに入る列車はスムーズに乗り入れられるのに対し、中国からの列車はゲージ変更の為その都度ロスタイムが生じ遅延の原因となっている。

モンゴルは旧ソ連の指導のもとで社会主義として発展していたが、ペレストロイカが始まると複数政党制を導入し、後に大統領制となり議会主義への転換を行った。ロシア、中国との経済的な結びつきは強く、市内のデパート（ノミンデパート、ス

カイシヨツピングデパート)、スーパーマーケットにはロシア製や中国製の日用雑貨品(シャンプー、石鹸、トイレットペーパー等)及び食料品(カップラーメン、ジュース、コーヒー、お菓子類)が売られていた。日本製品はスーパーマーケット”エブリデイ”で食料品(醤油等の調味料、乾麺、お菓子等)及び日用雑貨品が販売されていた。モンゴルもロシアと同様日本食ブームで市内の日本食レストラン”和”、“さくら”で寿司、日本蕎麦他が人気メニューとの事だった。

主要な輸出品は先にも述べた石炭、銅精鉱、螢石等鉱物資源が九割近くを占め、残りが畜産品である。貿易相手国は輸出が中国、ロシア、カナダ、韓国他、輸入が中国、ロシア、日本、アメリカ他である。主な輸入品は石油燃料、自動車、機械設備、





日用雑貨品、医薬品他である。また隣国の中国、ロシアより建設資材を輸入し市内至る所でビル、マンションが建設中で、複合施設ジャパントウン（住居、商業施設、学校、病院等が隣接）が二〇二〇年に完成予定である。因みに新規マシヨンは日本円に換算し三〇〇〇万〜五〇〇〇万円程度で販売され一ヶ月程で完売する。購入者は地下資源開発（石炭、銅他）に従事している高額所得者である。一般労働者は、賃金は安いが生活費を切り詰めて預金をし日本製の中古車或いは新車を購入するのが夢との事である。日本から毎月コンテナ単位で自動車、食料品、日用雑貨品が輸出されている。労働者人口の平均年齢が若く、地下資源も豊富なモンゴル国に今後より一層の経済成長を期待したいものである。